



正賀流師範 鉤 逢賀さん

体験に訪れるお客様の目的やニーズはそれぞれ異なります。例えば、武家文化がどういふものか学びたいという人にはレクチャーの時間を長くし、旅の思い出を作りたいという人には衣装選びや写真撮影を中心に楽しんでもらいます。わずか1～2時間の内にどれだけだけの満足を提供できるのか？お仕着せの決められたサービスではなく、一人ひとりの興味の対象を見極めながら対応することを心がけています。外国人にサムライの精神を伝えることは難しいですが、文化のバックグラウンドが違うからこそ、私たちが日頃当たり前だと思っていた礼儀や習慣、所作にこんな意味があったんだと、コミュニケーションを通して改めて気づかされることもしばしばあります。



武士の気概を 舞一差しに込めて

こころを込めて 我が社のおもてなし

サムライ剣舞株式会社

代表者／鉤 逢賀
住 所／京都市東山区三条通大橋東入三町目35-7 ネオアートビルBF
TEL / 075-751-2033
URL / <http://www.samurai-kembu.jp/>

詩吟に合わせて、刀と扇で時には力強く、時には優美な舞を舞う…。それが剣舞です。もともと、戦いに出陣する武士が、自らの士気を鼓舞するために行っていました。明治以降は伝統芸能として様々な流派に分かれて発展していきました。「独自の価値観が凝縮した剣舞の魅力を発信したい」と鉤さん。そんな思いで昨年4月、三条大橋の近くで外国人向けのサムライ剣舞体験を始めました。欧米、中東、アジアなど世界各国から約2500人のお客様が訪れました。

武士の正装である縞袴に着替え、ずつしりと重みのある居合刀を手にすると、気持ちと凛と引き締まります。映画やアニメの影響で海外でもサムライの認知度は高まっていますが、実際に体験してみると刀を鞘に収めるのも簡単ではありません。最初は戸惑いがちだったお客様も、英語を話すスタッフのフレンドリーな指導で打ち解け、最後はサムライになりきって記念撮影！笑顔が輝いています。

1～2時間のプログラムを終えた後は、刀を手元に置いてお互いに挨拶を交わします。「刃を自分側に向けて置くのは、相手に敬意を表すということ…。」単なる技術指導だけでなく、一つひとつの所作に込められた意味を伝えることで、日本人が大切にしてきた道徳観や精神性を伝えたい、と鉤さん。最近では、体験だけでなく、国際会議やパーティーなどでの出張演舞の依頼も増えています。剣舞を通して、「サムライスピリット」が世界に広がっています。